

『空へ降りる方法 -il modo di scendere al cielo-』

「版」を創り上げ、紙に刷る。その刷られた紙が「作品」となる。本体の「版」、そして複製の「作品」、そこに生じるズレ。複製芸術、間接表現が生み出す「版は本体にして、本体にあらず」「コピーでありながら、オリジナル」という矛盾。鏡像になるばかりか、実体と虚像の価値までもが反転する。この「版」と「作品」がもつ関係性こそが、私が版表現に好奇心を持ち続ける所以である。

イタリアでの12年間の活動は、二次元的な版作品を、さらに深い「関係性という時空間」へ解き放たせた。「版」と「作品」のみならず、「作品」と「時間」「空間」「鑑賞者」との“あいだ”にある関係性を追究する契機となった。イタリアの歴史的空間は、醸した空気と時間に満ちあふれ、作品に少なからぬ影響を与える。ホワイトキューブや額縁という枠組みから抜け出し、日常の時空間へ解放することによって、作品は自ら息づいた。イタリアと日本を行き来し続けるうちに、あちら側とこちら側、時間や立ち位置によって複数の視点を切り替える訓練を自ずと積んできた。身近にあるもの、当たり前が続けてきた行為、疑いもしなかった常識が、異文化では別の文脈で語られ、発想の転換を余儀なくされる。日本の大学時代から取り組んできた文化人類学にまつわる 身近なものごと、いわゆる日常生活への探究心は、そこそここのあいだを揺れ動き、私を制作活動へ駆り立てた。作品を通じて、日常生活の視点転換や、ものごとの関係性を探ってみたいのだ。

今回の展示は、あちら側とこちら側のあいだ、つながりを探る試みである。そこそこ、上と下、内と外、そのあいだにある関係性は、作品同士がゆるやかにつながることで相対的に変化し続ける。また、「版」を その特質である「複数性」や「再現性」から解放し、「版」と「版」のあいだ、そして「版」と「作品」のあいだを可視化したいと考えた。いわゆる本来の版画を作りたいというより、間接表現というフィルターを通して、少し離れたところから物事を捉えたいのだ。これは、私がそこそこ、内と外を揺れ動くために育んできた視点と重なる。

私たちの身の回りにある物事の見え方は、「版」と「作品」の関係性にふしぎと似ている。経験や教育によって培われた視点を通して、実体と虚像のあいだを見ている。また、実像を記録した写真や映像や文書は、時代を越えて残り続け、やがて時間と共に実像が消え、虚像がいつしか実体となっていく。私たちが自身の存在を確認し踏みしめる地、仰ぐ空も、視点を変えれば逆にもなる。空は頭上のみならず、足下にも存在し、私たちを包括的に取り囲んでいる。一連の作品のつながりによって、そのような視点転換の契機を促してみたい。

宮山香里

BASE GALLERY / MATRIX JAPAN S.A.
103-0025 東京都中央区日本橋
茅場町1-1-6 小浦第一ビル1F
tel : 03 5623 6655
fax : 03 5623 6656
info@basegallery.com
www.basegallery.com